

平成20年2月8日

各関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第1号を送付します。

平成19年度病虫害発生予察特殊報第1号

平成20年2月8日
高知県病虫害防除所

1. ウイルス名 *Melon yellow spot virus* (MYSV)

2. 発生作物 ニガウリ

3. 発生面積 約12a

4. 発生経過

平成19年11月に土佐市の促成栽培ニガウリで、葉に褐色の斑点などを多数生じる病害と思われる障害が発生した。高知県農業技術センターでELISA及びRT-PCR検定を行ったところ、*Melon yellow spot virus* (以下、MYSV)の感染が認められ、接種試験により同じ症状が再現されたことから、MYSVによる病害であることが明らかになった。

これまでMYSVは、自然条件ではキュウリ、メロン、スイカなどで感染が確認されているが、ニガウリで感染を確認したのは初めてである。

5. 病徴

葉に不鮮明なえそ斑点や黄色に縁取られた小型で褐色の斑点を多数生じる。果実への被害や収量への影響は不明である。

6. 発生生態

ミナミキイロアザミウマによって媒介される。本虫は幼虫時にMYSVに感染した植物を吸汁することで保毒し、終生媒介能力を持つが、経卵伝染はしない。また、土壌伝染、種子伝染はしない。管理作業で接触感染する可能性はほとんどない。その他のアザミウマ類がMYSVを媒介するかどうかは不明である。

汁液接種試験の結果では、ウリ科のキュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ナス科のタバコ、ペチュニア、マメ科のササゲなどに病原性を示すが、寄主範囲は比較的狭い。

7. 防除対策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマを施設内に入れないように、ハウス開口部への防虫ネットの被覆、シルバーポリマルチの利用、ほ場周辺の除草など耕種的、物理的な防除法を取り入れる。
- (2) 青色粘着トラップによりミナミキイロアザミウマの早期発見に努め、早期防除により増殖させない。薬剤は薬剤抵抗性の発達を避けるためローテーションで使用する。
- (3) MYSVが発生したほ場では感染株を抜き取り、ビニール袋などで完全に枯れるまで密封処理するなど適切に処分し、感染源の除去に努める。
- (4) MYSVは他のウリ科作物などにも感染するので、促成栽培の終了時はハウスの蒸し込み処理によりアザミウマ類を死滅させ、保毒虫をハウス外に飛散させない。
- (5) 本県では既にキュウリ、メロン、スイカにおいてMYSVが蔓延しており、これらの地域では特に発生に注意する。



図1 葉のMYSVの病徴(初期)



図2 症状の進んだMYSVの病徴